

## 令和3年度 第1回磐田市立図書館協議会会議録

- 日 時 令和3年7月7日（水） 午後3時から午後4時30分まで
- 場 所 磐田市立中央図書館2階視聴覚ホール
- 出席者 委員：寺田綾子、袴田真希、佐野典秀、田中さゆり、大橋八重子、青島公悦、  
鈴木真澄、鈴木弥栄子、菅 久美、鈴木敬代（以上敬称略）
- 事務局等：
- 村松啓至教育長  
市川暁教育部長  
中央図書館：鈴木都実世館長、山中則明館長補佐、  
長尾信貴主査、小澤聖浩主任  
福田図書館：伊藤傑夫館長  
竜洋図書館：伊能明彦館長  
豊岡図書館：高橋道博館長  
学校教育課：勝又千夏指導主事  
ひと・ほんの庭 にこっと：岡本由紀子館長
- 傍聴人 0名

### 内 容 以下のとおり

議事に先立ち、委員へ委嘱状の交付、会長の選出及び職務代理者の指名が行われた。

会長は、磐田市立図書館条例施行規則第14条第2項により委員の互選で選出し、青島委員が賛成多数で会長に就任した。また、青島会長の指名により田中委員が職務代理者に就任した。

### 議事（1）令和2年度事業報告及び令和3年度主要事業について

#### 1. 令和2年度の事業報告について（以下、事務局）

##### （1）図書館資料整備事業

- ・今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、4月から5月にかけて臨時閉館や開館時間の短縮を行うなど、図書館の運営にも大きな影響があった。  
年間の利用者数については、5館合わせて289,562人で、令和元年度と比較すると約10%の減、貸出点数については、1,152,686点で約6%の減となった。また、1日当たりで比較してみると、5館合計の利用者数は1,063人で前年度比45人の減、貸出点数は4,233点で前年度比15点の減となった。なお、1人1回当たりの平均貸出点数は、令和元年度は3.8冊でしたが、令和2年度は4冊と、若干ではありますが増えている状況である。このようなデータから推測すると、利用者は外出を控える、来館頻度を少なくするといった感染防止対策をとりながら、図書館を利用したい、本を読みたい、という思いを抱いていると考えている。
- ・電子書籍サービスですが、平成28年10月から県内初の取り組みとして実施しているサービスで、閲覧数等は23,128回で前年度に比べて約4倍の利用増となった。コロナ禍の中、来館しなくても、いつでも利用できるサービスであることが利用増につながったと考えている。

## (2) 図書館施設管理事業

- ・各館の状況に合わせて様々なイベントを企画したが、残念ながらイベントの中止・縮小を余儀なくされたことから、参加者は前年度に比べて約60%の減となった。また、展示室は市民団体の活動の発表の場として利用されているが、中止となった展示もあり、入場者は前年度に比べて約20%の減となった。

## (3) 子ども読書活動推進事業

- ・「第3次磐田市子ども読書活動推進計画」に基づき、「おはなし会」や、市内の全小学3年生の親子を対象とした「茶の間ひととき読書運動」などを実施した。昨年度は、講演会やイベントの中止あるいは縮小により、参加者は前年度に比べて約30%の減となったが、学級文庫等の小中学校への本の貸出しや、感染防止策を講じたうえで7月から「おはなし会」を再開するなど、子どもたちが本に親しむ機会の確保に努めた。

## (4) 図書館視覚障害者サービス事業

- ・資料の貸出しと対面朗読は資料のとおりである。毎月の声の図書館だよりや、利用者からの個々の要望をお聞きして点訳・音訳図書を郵送している。また、協力員の方に、点訳、音訳資料の作成をしていただき、読書機会の提供に努めた。

## 2.令和3年度主要事業概要について（以下、事務局）

- ・今年度も、「市民に役立ち、市民とともに歩む図書館」を基本方針とし、ここに記載の4つの運営方針を、職員一人ひとりが常に意識し、事業を展開していきたい。

### (1) 効果的な情報と魅力の発信

- ・引き続き行政他部署との連携を図り、各事業の効果的な実施への協力をするとともに、図書館主催の事業についても、図書館へ足を運んでいただくきっかけづくり、また、図書館を知っていただく機会としても有効なものにしたいと考えている。

### (2) 施設管理と運営

- ・施設管理については新型コロナウイルスや施設の老朽化対策など、市民の皆様が安全・安心に利用できる施設の維持管理に努めていく。また、令和4年度に予定している図書館システムの更新に向け、着実に準備作業を進めていく。

### (3) 図書館資料整備事業

- ・各館の特徴を活かした書架づくりとともに、できる限り同じ資料を複数館で所蔵しないよう調整するなど、引き続き厳選した資料収集を実施していく。また、電子書籍サービスについては、現在の「コロナ禍」ということから全国的にも注目されているが、本市においても情報を広く発信するとともに、資料の充実を図っていく。

### (4) 子ども読書活動推進事業

- ・「第3次磐田市子ども読書活動推進計画」の推進期間が令和2年度に終了したことから、これまでの5年間の取り組み状況を検証したうえで、新たな推進計画を策定するとともに、引き続き子どもたちが本に親しむ機会の確保に努めていく。

### (5) 図書館視覚障害者サービス事業

- ・点訳、音訳協力員の皆様の協力をいただきながら、点訳図書や録音図書の作成、対面朗読など、視覚障害がある方も健常者と同様に図書館サービスを利用できるよう、事業の円滑な継続実施を図っていく。

## (6) 各館の取り組み

福田図書館、竜洋図書館、豊岡図書館、ひと・ほんの庭 にこっとより各館の取り組み状況の報告を行った。

### (福田図書館)

福田図書館では、比較的高齢者の利用が多いことから、時代小説や大活字本などの資料の充実を図っており、海が近いというロケーションから、海に関する資料も常設している。

また、子育てに関する資料は、児童書の近くに配架することで、親子が一緒に本を手にとれるレイアウトにしているが、令和2年度はさらに子育て関係の雑誌を加え、一層の利便性を図った。今年度は子育て世代の利用者の方に新しい情報を提供できるよう、資料の一層の充実を図って行きたい。

### (竜洋図書館)

竜洋図書館は、音楽という特色を打ち出している。竜洋地区に大手楽器メーカーの工場があることから、旧竜洋町時代から音楽に関する様々な取組を行ってきており、特に楽譜を約3,000点所蔵している。この特色を前面に打ち出すため、平成30年に1番奥の書棚に配架されていた楽譜を、カウンター前の広く見やすい位置に移動し、利用者が探しやすくした。

また、令和2年度には楽譜だけでなく、楽器の弾き方や音楽家の自伝書などの音楽に関する資料をカウンター前に配架するようにした。今年の4月で開館30年を迎え、夏休みに記念イベントを企画している。今後も地域に近い図書館として取り組んで行きたい。

### (豊岡図書館)

豊岡地区には書店が1つしかなく、豊岡図書館ではできるだけ生活情報、暮らしに役立つ図書を充実させていこうと取り組んでいる。図書館には2階にも書架があるが、平成30年度から来館者の中心である小学生以下の親子や、高齢者を対象に、できるだけ1階を中心にして完結してもらおうと、児童書に加え生活に役立つ本として旅行関係や健康関係、料理関係を中心に配架替えを行うとともに、以前は絵本コーナーの畳の部屋しか靴を脱げなかったが、マットを敷くことで子供たちが自由に動けるようなスペースを作った。

また、合併前から継続している移動図書館は、豊田南小を対象に月に1～2回、昼休みに貸出しを行っている。今後も楽しい身近な図書館になるよう取り組んで行きたい。

### (ひと・ほんの庭 にこっと)

ひと・ほんの庭 にこっとは平成30年に豊田図書館を改修し子育て支援施設としてオープンした。子育てに関する相談や支援、情報収集を行うとともに、本も活用していこうという施設である。

令和2年度はコロナの影響として相談内容が多様になってきたと感じている。外出を自粛して身近な人に相談出来ない保護者の方や、外出を控え外遊びができない子供たちのストレスも増幅し、合わせて親のストレスも増幅しているというところが相談内容に表れている。今後も保護者の方の悩みに寄り添えるような形で、本の力を生かしていけるように対応して行きたい。

〈質疑・意見〉

- 竜洋図書館を利用した際、楽譜が充実しており楽器店のようで感心した。遠いのでなかなか行けないが、各館で重ならないように特色を出そうとしているのはとても良いと感じた。
  - 障害者サービス事業の中のDAISY（デイジー）図書とはどのようなものか。
  - DAISY 図書は、視覚障害の方が用いる専用の図書で、デジタル録音してCDを作るのですが、普通の音楽CDではなく、専用のソフトウェアを持っていないと再生できません。普通のCDプレーヤーで再生しても音は出てくるが、意味のある文章で再生されないようになっている。
  - 図書館だよりですが、自治会の回覧板等で1部ずつお取りくださいというような市の連絡文書が来ますが、その中の一つで図書館だよりが入っているとすごく便利ではないかと感じました。
  - にこっとで行っている子育て相談が結構増えているというお話があって、民生委員の地域への入り方がすごく課題になっている。相談が多様化していると聞き、民生委員が同席すればあの人はうちの地区の人というのが認識できれば糸口になり話ができるのではないかと思います。
  - ブックスタートという取組ですが、出向かないともらえないのか？そこに行かないと本を紹介してもらえないというのはちょっと寂しい。どういう提供の仕方をされているのか、ブックスタートについてご説明ください。
- (事務局) にこっとで行っているブックスタートについては、磐田市だけではなく全国的にやっている事業で、磐田市では4か月児を対象者としている。周知の方法については、保健師が5か月の赤ちゃん訪問を行っており、そのときに全ての赤ちゃんにブックスタートがあることをお知らせしている。
- ブックスタートの主な目的は、お母さんや保護者の方と赤ちゃんが絵本を使ってコミュニケーションを取ることであり、コミュニケーションツールとして絵本を使うというものである。ちょっと座ってお膝に入れるような頃に絵本を使っているいろいろな温かい言葉をかけてくださいということを伝え、メッセージを添えながら渡している。
- これまでは集団で何人かのお母さんをその対象地に集めて1ヶ所で行っていたが、コロナ禍において集団での実施はなかなか難しいため、今は個別対応ということで1組ずつお子さんと一緒に来ていただき、お話をさせていただきながらブックスタートパックとしてバッグと本一冊と図書館の使い方と合わせて渡している。
- 電子書籍には読み上げサービスもあり、視覚障害者にとっては電子書籍が充実することによってさらにサービスが充実していくということにも繋がる。著作権で難しいとは思いますが、もしダウンロードサービスができるようであればうまく利用できるようなシステムができると非常に良いと感じた。今1番困っているのは支援を必要とする人のところになかなか届かない、孤立しているというのがコロナの厄介なところでもあり、子育てで困っている人になかなか支援が届かないというところがあり、小・中学生GIGAスクール構想で、いよいよ1人1台端末が出来たので、利用価値が高くなると思われる。今後、電子教科書だけではなくて電子図書がうまく子供たちに活用されればより素晴らしい教育環境が整っていくと感じた。
  - 体育館や交流センターは予約しないと利用出来ないが、図書館はふらっと子供たちだけでも行け、子育て中の方でも図書館に行ってみようかとすぐ行ける場所なので、こういう公共施設は本当にありがたい。図書館は、行きたいときにすぐ行けて誰でも予約なしの利用ができるところがすごく魅力的なので、これからも図書館利用のために図書館経営を充実して欲しい。

○私は人形劇をやっており、素敵な本を原作にした人形劇を小さい子に見ていただき、その本をもう1回見たいという図書館との繋がりが少しでもできれば良いと思っているが、どうしても著作権の壁があり公立図書館での演目では著作権に引っかかるものがある。全て作品を1字1句間違いなく読むことが求められ、人形を動かしながらちょっとセリフが入ったり、歌を歌うことになるともうダメと言われてしまう。会社によっては厳しい規制もあり、オリジナルの作品ならこの規制もかからないが、市民サークルではなかなか力がなく、作品選びに苦勞しなかなかレパートリーが広がらない。お金を取るわけではないのに、そこまでの規制が必要なのかと疑問を感じている。以前、住んでいた兵庫県の町立図書館ではとてもサポートして頂き、練習会場として会議室を毎週1回、劇団に無料で貸してくれていた。ケコミという人形劇に必要な舞台も非常に高いものですが図書館が所蔵していて使わせてもらい練習が出来ました。こちらでもそんなサポートをしていただけたらと思う、図書館に飛び込んだものの、練習会場の手配が難しくサークルの活動をどうするのが大変問題になりました。図書館と子供たちをつなぐ一助になればと思っているサークルに対してのサポートは少しでもお願いしたい。そうすればもっといろんなサークルが育って、サークルの劇が見られるのではと思います活動している。

## 議事（2）図書館における効果的な広報（PR）について

図書館における効果的な広報（以下、事務局）

- ・図書館で行うイベントや開館日、新刊情報、展示室で行う特集の案内は主にウェブ媒体では、図書館のホームページを中心に行っている。また、紙媒体としては、図書館だよりも非常に重要なPRアイテムとして考えている。その他、広報いわたでのイベント参加募集の告知や館内のポスター掲示やチラシの配布を行っている。先ほど図書館だよりを全戸配布してはというご意見もいただいたが、現状は交流センターで配布して地域の方に手にとっていただくことが多く、市役所や公共施設などでも配布している。
- ・ウェブ媒体と紙媒体以外の取組としては、メール配信サービスの「いわたホッとライン」を利用して図書館イベント情報をメールで配信をしている。その他、磐田市の公式ツイッターやインスタグラムなどのSNSにイベントの様子が取り上げられることや、新聞社にイベント情報を流して取材に来ていただき、それが記事になることで市民の目に留まり広報の一つとしてPRに繋がっている。
- ・熱心に図書館を利用していただいている方、ヘビーユーザーの方については自分から情報を取りに来る方が多いのである程度ホームページをご覧になり、事前に「いわたホッとライン」に登録されて自分の欲しい情報をどんどん取り入れていく姿勢が多いと感じている。

現状の課題としては、ライトユーザーなど図書館になかなか今まで目を向けて来なかった方への情報提供が難しいと考えている。「いわたホッとライン」にお出かけ情報などの広いジャンルの中で、登録しておいていただければ、図書館の情報も含めて色々な情報が配信されるので、図書館の情報が間接的に届きそのきっかけで来てみようと思っただくことにも繋がる。

以前、「いわたホッとライン」で図書館ツアーの企画を配信したところ、初日から反応があり定員10名のうち、初日で6名の申込みいただいた事例もあった。図書館ツアーは、初心者向け講座ということで予約の仕方とか電子書籍の見方を説明し、図書館に今までパソコンで予約できることを知らなかったとか、電子書籍も実際に手順がわからないという方でも、参加してやり方がわかって良かったといった反応もありましたので、初心者向けの講座は続けていかなければ

ればいけないと感じている。

- ・もっと図書館のことを多くの方に知っていただくために、今後どのような広報をやっていけば、効果的かといったところ、委員の視点で教えていただければありがたい。手法だけではなく、利用者が何を求めているのか、心に響くものを伝えるためにはどういった情報を提供すればいいのか、率直なご意見をお聞きしたい。

〈質疑・意見〉

○子供向けの情報発信はあるのか。

(事務局) 子供向けという特化した情報発信としては、「こども図書館だより」を作って各学校に配布している。

○今の中学生はかなり時間がなく、本を読む時間がどうしても取れない。中学生ぐらいになると塾に通う子も多くて部活動と塾を両立して読書の時間がないと言われている。学校では朝の時間に朝読書を取り入れており、読書は毎日10分程度行っており、休み時間に本を読むという子もいるので本が嫌いかというところではないが、自分たちで自ら本を探しに行くという時間はなかなか取れないというのが現状である。

夏休みなどで多くの子供たちが地域の図書館の自習室を活用するのではないかと。自分の家や学校等で勉強するよりも、集中ができるし勉強がはかどるイメージがあるので、学習室内などの目に触れやすい所に中学生が興味を持てるような本を置いていただくとありがたい。今話題の作家の作品を前面に置いていただくなど、そういうところに力を入れてやっていただくとありがたい。

○大学の場合、高校生向けの広報活動が多いが、ゼット世代ということで、インスタグラムや、ツイッターなどSNS系がメインで紙媒体はあまり見ない世代が出始めている。大学図書館ではそこを中心にターゲットを絞り込めるが、市立図書館の場合はゼット世代だけではなく、もっと上の世代も多く利用され、必ずしもデジタル機器を持っている人たちだけではないので、紙媒体を使うということは非常に良いことかと思う。

一方で、今回のコロナのワクチン接種でも、やはりツイッターが効果を発揮しており、SNSを活用して図書だけに特化した情報を欲しい人にピンポイントで届くような形ができると良い。また、イベント情報の提供ではツイッターが良いが、展示会等については、フェイスブックなどで見逃しの人に対してのサービスとして情報提供できると、来年も行ってみようという広報がうまくできるので、ぜひ活用されたいと思う。最近の若い世代は動画を見たがる傾向があり、ユーチューブや、短い動画が投稿出来るインスタグラムを使った動画での引きつけが若者に受けている。

特に新着図書については、絶対即効性が必要だと思われるのでツイッターなど本当に情報を求めている人にはすぐ届くような形の配信が良い。また、学習室の空き状況の情報は勉強したいという中高生に届く情報である。LINEやツイッターとか使い1時間とか2時間おきぐらいで、情報を流すことで学生にとっては効果的に図書館に行くチャンスを与えられる。

先ほど人形劇団の話で、会場に困っている話があったが、磐田市には「ながふじ図書館」があるが、学校の敷地内の図書館という所がとても重要で、学校の敷地内であれば教育活動として見なされるため、著作権も教育活動の中でのものと位置づけられる。大学でも同様であるが教育活動においては授業で使うものに関しほとんど著作権について利用料は発生せず、先生方

の資料として提供できるようになっている。オンラインになって著作権が厳しくなったが、サートラスという組織が立ち上がって、毎年ある程度のお金を払うと著作権の処理を全部やってくれるようになっている。「ながふじ図書館」が学校の敷地内にあるという特徴があるので、クラブ活動とうまく連携し、人形劇団がうまく活動ができると良い。

- 広報は、やはり対象が重要であるため、どういう年齢か、どういう方を対象にするのかを少し絞って発信したらどうか。発信ツールとして今はSNSもあるし、紙媒体でも良いと思う。効果的な広報としては、対象があまりに広いので、どの方たちを対象にするか絞って行うと良い。

### 議事（3）その他

ながふじ図書館について

今年の4月9日に開館したながふじ図書館のこれまでの利用状況を説明した。

（以下事務局）

- ・6月末までに学校図書を利用した生徒は、5,786人、1日当たり約105人の児童生徒が利用している。また、一般の方も利用できる本や雑誌の利用者については、4,123人、1日当たり約75人の方が利用している。学校図書ということで、約94%はながふじ学府一体校の児童生徒となっている。したがって、約6%の方が一般の方の利用という状況になっている。6月には小学1年生の図書館利用者カードが出来上がり、現在は全ての学年で図書館を利用できるようになった。子供たちが昼休みはもちろん、授業の間の休憩時間にも図書館に足を運んでくれている状況である。これまで、児童生徒の利用を優先して対応してきたので、まだまだ一般の方には知られていない部分があるが、今後は地域の方々にも積極的にPRして、より多くの方にながふじ図書館を知っていただくように努めていきたい。

〈質疑・意見〉

- 駐車場についてはどうなっているのか。

（事務局）専用駐車場はまだありませんが、東門の散策路があるところに10台分止められるスペースがあり、そちらを利用していただくことになる。

- 貸出し事務はどなたがやっているのですか。

（事務局）司書を2名配置している。

### 【連絡事項】

- ・事務局より、秋に開催が予定されている「令和3年度静岡県図書館大会」の案内と、来年1月に予定されている「令和3年度第2回磐田市立図書館協議会」の案内を行い閉会。